

# ほろ酔いインタビュー●佐佐木幸綱交遊録●

2021・12・26 於・佐佐木邸

佐佐木信綱の顕彰、

〈第20回〉

一九八八年(昭和63年)〜

「朝日歌壇の旅」で天安門事件直前の中国を旅行(一九八九年)、「心の花」全国大会に竹山広、築地正子、石川不二子たちが参加小紋溜のこと、歌集『反歌』『金色の獅子』など

佐佐木幸綱十高山邦男・黒岩剛仁・加古陽・奥田七羊・清水あかね十佐佐木朋子

記録作成 吉田瞳

▽「心の花」の協力者

朋子 昨日、「心の花」の二〇二二年の一月号が出来てきたので、どうぞ。

清水 表紙がきれいですねえ。

朋子 「心の花」の印刷はオカモトヤの小林修二さんという人が一生懸命、やっつけているのですが、彼はあと一年ちよつとで定年ですって。

黒岩 だから、二〇二三年十月の「創刊1500号記念号」は自分は出来ません、みたいなことを言われてますね。

朋子 そうなんです。残念。記念号はどうなっちゃうのかなあ。

高山 まあ、しようがないですねえ。

朋子 まあ、そうですねえ。

幸綱 「心の花」の表紙を描いてくれている岩佐なを君は詩人で、「H氏賞」という

詩壇で大切な賞を、九〇年代に取ってる詩人です。早稲田の図書館にずーっと勤めていた人です。もちろん、エッチングも専門家です。

奥田 男性ですか？

幸綱 もちろん、男性です。

全員 エーッ!?

幸綱 なんて驚くんだった、男性だよ。

清水 若い女の人だと思ってました。